

まちの美化に新たな試み

亀山市
昼生地区

歩道など雑草対策実施

【亀山】亀山市昼生地区の国道306号の美化運動に取り組む、同市昼

生地区まちづくり協議会（松尾義久会長）の役員4人と市職員二人は十七

日、同市菅内町で、国道306号を管轄する県鈴鹿建設事務所による防草対策「ワイドコート」工法の作業を見学した。

同協議会は、美化運動の一環として、ポイ捨て防止に取り組む手段として毎月一回、ごみの清掃活動をしている。これまで市の協力を得て、監視カメラや、横断道橋に「無くそうポイ捨て」の横断幕を設置している。

この日の作業

「ワイドコー

ト」工法を見学

する昼生地区ま

ちづくり協議会

関係者ら亀山

市菅内町内で

は、歩道と緑石、排水溝の隙間に雑草が生えないようにするもの。これまでも同事務所と会合を開き、工法や実施時期について検討を重ねてきた。

同事務所は、雑草対策として、歩道と排水溝の隙間に幅十センチ、延長約一・六メートル、ポリウレタン樹脂塗膜を施す「ワイドコート」工法を、試行的に実施した。

今後は、雑草の生え具合を見定め、事業予算に充て、昼生地区内約二・五キロ（同市下庄町―菅内町）間の上下線に着手する予定。

同協議会役員は「この工法により、雑草が生えず、ごみのポイ捨て防止につながることに期待したい」と作業を見つめていた。

（岩間匠）

